

講義名	中国語 A		
担当教員	森 宏子		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 5時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が会といっても通音ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たちが日本人にとって中国語学習は、漢字を理解することが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようにしたいものです。テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

中国語Aと中国語Bは、どちらも同じレベルの授業（入門クラス）です。どちらを履修してもかまいません。

到達目標

- 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
- 平易な中国語を読み、音調や状況に応じた応答ができるようになる
- 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる

中国語検定試験のレベルを目安とすると、準4級～4級レベルの中国語に相当します。検定試験準4級から4級にチャレンジできる力をつけます。

本科目は対面を原則とする科目です。オンデマンドでの受講では、到達目標を達成するのが難しい科目であるため、オンデマンドでは開講しません。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者や、濃厚接触者に指定され一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

提出課題

とくに課題は予定していません。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

出席確認を兼ねて小テストを行うことがあります。小テストは返却しませんが、次回の授業で講評します。中間試験は返却した上で、講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
 平常点（出席状況、受講態度） 20％
 中間試験と期末試験 80％

履修にあたっての注意・助言他

受講者は必ずテキストを購入し、授業に臨んでください。新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの変更が生じる可能性があります。

教科書				
.はじめよう案々中国語 .	白水社	小林和代・韓軍	2200+税	978-4-560-06938-7

プリント資料及び参考文献

必要に応じて配布します。

授業計画

- ガイダンスおよび 第1課 発音練習 声調・母音
- 第2課 子音・複合母音・鼻母音
- 第3課 向月向日？/何時？
- 第4課 お名前は？/どちらの大学？
- 第5課 たね？なに？/これは-です
- 第6課 いる/ある
- 第5課～第6課のまとめ
- 中間試験
- 第7課 どこにいる？/AそれともB？
- 第8課 どれくらいかかる？/～するのが好きです
- 第9課 いくくら？/Aははよりも-です
- 第10課 -したい/どこで？
- 第11課 -できる？/～していい？
- 第12課 -している/～したことがある
- 第7課～第12課のまとめ

授業の進度は、受講生の習熟度に応じて調整します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
○ ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】
 新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で完成させてください。次の授業で学ぶところに目を通し、分かることと分からないところを、明確にしておいてください。テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください。可能であれば、録音を音読してみる。（以上、2時間程度）

【復習】
 授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返り」を行ってください。ドリルなどの宿題をします。今回学んだポイントの定着を図ります。課文のピンインを手書きし、ピンインを音で聞きます。テキスト付属のCDを聞きながら、課文を読みます。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）について実用的かつ基礎的な語学力を習得するとともに、中国の社会や文化について理解する資質・能力を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考